



住民検診風景

8月14日から

### 結核予防の住民検診

全員が受けましょう

住民検診の日が近づきました。来る八月十四日から二十八日までの十三日間、町内各部落で住民健康診断を行ないます。鮮しい日割は別途にお知らせしますが、各家庭の全員が受診されるようお願いいたします。

結核と言えはむかしは遺伝するとか、不治の病だとかいって大へん恐れられたものですが、近年は医学の進歩で死亡率がグッと低くなって余り恐れられなくなりました。それでも全国では年間二万人が亡くなると言われています。

昨年度松尾保健所管内では百十一人が発病し、中年から老人の方が八十%を占めていたとのこと。

また昨年度横芝町で検診を受けた成績は九十八%で、そのうち十四人が極く軽いうちに発見され、働きながら治療してなおった例もあつたくらいです。

結核予防法の検診義務も勿論ですが、自分自身の健康を守り楽しい生活を送るためのものですから、今年も住民一人残らず検診を受けましょう。

乳幼児には新しい方法の予防接種

小学校入学前の子供さんや乳児にはレントゲン検査はやらないで、ツベルクリン注射と、中一日おいてその反応成績を判定し、陰性者にはBCG

接種を全員に行うよう義務づけられています。この期日は改めておしらせしますので大切なお子さんを結核から守るため、一人残らずツベルクリン反応検査を受けましょう。

BCGは結核予防には実には大きな力を持っていますが、これまで「うんだ」とか「きずあとが残る」とかといやがるお母さん方もいましたが、昨年から薬と接種方法が変り、注射筒を使わないで薬を皮膚に塗る方法（経皮接種）になりましたから、そのような心配はなくなりまして、この機会にお知らせしておきます。

## ふるさとのお話

### 大力無双の海保甲斐守 (一)

その後、三吉は伏見城の大竹を指でひしぎこれを上帯に御番を仰せつけられ小野次郎しめて、これも挾箱に腰をか右衛門と上落したが、ある時三吉は遊女町で喧嘩をし、武士多数を殺した。

また三吉は相撲を好んだが、尋ねた。三吉の家来は「我主ある時、上方に比類のない大人は無手なり。ただ大力な方の武士があつてこの事を聞き」と答へ「その方の主人はつき、その武士が少数の家来を」と聞いたのに対し「我主人撲を申し入れた。やがて双方と云つた。三吉はこれを聞いて仕度を整えて上方より出て来て、行司が合せて立退くと、た。武士は鉄の三尺余りの延わざと左の足の指をあげて板を上帯にひかえていた。すると彼の武士が一つと近寄り三吉の左の

足の大指を取り上げようとした。大力の三吉のこと故足は持上らない。すかさず右の足で武士の背中を大地に踏みこむと骨もくだけて死んでしまった。大勢の見物人もこれを見て「これは人間のわざである」と皆驚ろいたのである。

これらのごとで小野次郎右衛門が三吉の非道を將軍に言上したため、佐倉城主土井大炊頭利勝に命じ御名代として篠田勘兵衛、日暮弥市、二人に大將を命じ三百騎をもつて寺台城攻略にかつたのである。

と悪意であるのを聞き、文珠院を呼んで「この度將軍の上意で三吉殿討手を仰せつけられた。三吉殿が手向いすれば、天下の敵になる。御上意に従えば海保家跡目相続もできるのだから、これについては我々二人たしかに請合ひ申す。若し手向いした時は天下に敵対したことに

珠院は用事のため中座した。三吉は何心なく碁を打っていたが、討手の軍勢が寺台城へ押寄せて来たのが三吉の耳に入った。

そのとき文珠院が再び円融寺へ来て三吉に上意の趣を一部始終話したところ、三吉は顔色も動かさず「左様のことであれば手向いはいたすま」と言つて、またいとまごいの碁を打った。

共々死罪になります」と申し上げた。三吉は「さのみ苦勞に思ふなら大小につめをかきなされ」と言つて大小を渡した。文珠院はつめをかいて返し連れ立って寺を出た。

寺台村と浜街道の別れ道にさしかかると、右之助左之助という御供の二人の小姓に、右之助は刀を、左之助には羽織を与え「汝等はこれより浜辺の屋形村に行き渡世せよ」と申し渡したが、二人とも「いかで御暇申すべきや」といって御供に討死した。来世の御供に討死したと聞いて落ちゆく様子も見えなかつた。そこで三吉は声を荒げ「この度手向いしては天下の敵となる。早々落ち行くべし。若し取らねば七生まで勘当ぞ」と言われたので、二人とも是非なく引取つて行ったのである。

大力自慢の武士をふみ殺す

その上文珠院も共に罪科に処せられよう」と伝えた。文珠院は大きに驚ろき、三吉に手向いさせないことを約束して即日三吉の所に行き「今日山の作村円融寺へ碁遊びにおいで下さい。拙僧も同道仕りま

す」と申し入れた。二人は円融寺へ行って碁一盤を打ち文

そのあと別の盃をした時文珠院が「大小刀を拙僧がお預かり置き申す」と言つたのに、三吉は「武士が両腰をはなす法はござらぬ」と答へた。文珠院はそれを聞いて「大小のお渡しはなくては手向いするように見えます」と、二人に語をついで「左様に申し

（未完）